



災害と向き合う 地域とともに



Research Center for
Regional Cooperation
and Disaster Care

ロゴ“CとDのつながり”

CareのC(ケア)とDisasterのD(災害)をモチーフにロゴマーク化し、2つのマークを重ねることで「地域連携」「災害ケア」「助け合い」を表現しました。また、積極性や情熱の色とされる赤色と知性を表す色とされる黄色の中間色のオレンジ色を用いることで、すぐに行動に移ることができる前向きさや明るさ、温かさを企画しました。

地域連携災害ケア研究センター ご案内

地域連携災害ケア研究センターの3つの機能

01 災害対策

神奈川工科大学の所在地域は、地震に強い地盤、そして洪水の被害にも遭にくい条件下にあります。そこで、学生・教職員はもとより、地域の方々が安全で安心できる避難場所として利用していただけます。

●神奈川工科大学の方針

- 地域住民の皆様を受け入れ、心と体の安らぎの場を提供する
- 避難者のための非常食糧などを備蓄
- 厚木市と公設避難所に関する協定締結

●災害対策設備(例示)



自家発電機
災害対策本部設置予定の棟に給電



AED
教育に係622棟に設置済

02 地域連携

災害ケアには多領域の連携協力が必要です。地域連携災害ケア研究センターは、センター名に「地域連携」とあるように研究基盤に地域連携を置いて行くよう努めています。

●公開講座

地域住民の防災意識の向上、災害対策の必要性を理解し行動できるよう「防災・災害ケアに関する公開講座」を実施しています。

●厚木市との連携

- 防災無線の聴こえ調査
- 地域連携災害ケア研究センターとの協働研究
- 地域連携災害ケア研究センターシンポジウムでの講演
- 地域連携災害ケア研究センター主催の産官民連携の意見交換会への参画

●厚木市大学連携・協働協議会

災害時における厚木市と神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工科大学及び東京農業大学農学部との相互協力及び相互支援します。



災害時対応の関係者を参集してラウンドテーブル・セッションの開催



地元小学校、公民館での聞きこえ調査を市職員、自治会メンバーと共に実施



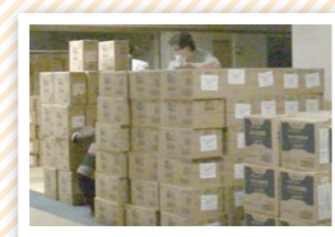
災害と向き合う
地域とともに

TOPICS

JHAT 日本災害時透析医療協働支援チーム



日本災害時透析医療協働支援チームJHAT(ジェイハット)は、日本災害時透析医療協働支援チームの英語名Japan Hemodialysis Assistance Team in disasterの頭文字をとった略称です。災害時においても治療を中断することが許されない透析治療では、患者さんの命を守る透析医療従事者を支えていかなければなりません。JHATの本部事務局は本学に置かれており、発災時は透析医療の支援拠点として機能します。



03 研究室

防災、災害ケアは、異なる自然環境、居住環境、社会資源などが、その対策を複雑なものとしています。なによりも、取り残される人がいないようきめ細かい対応の研究を進めています。

災害ケア研究室



災害ケア全体に関する研究

防災、発災時、非常事態の継続、復旧に向けた一連の対策を、医療、看護、福祉などを必要とする要配慮の必要な人に目を向けながら研究を進めます。

災害対応システム研究室



災害対応システムの研究・開発

工学系大学の強みを活かし、情報通信を用いた諸種の災害時運営システムの開発や、災害時を想定した福祉機器の開発などを行い、これからの時代に即応できる研究を進めます。

避難所ケア研究室



避難所でのケアに関する研究

今日の避難は、集団生活ばかりではなく、在宅避難、車中避難などさまざまな形態が想定されます。避難生活者の心身両面の健康に対応するための研究を進めます。



Research Center for Regional Cooperation and Disaster Care



地域連携災害ケア研究センターについて



Activities センターの活動

神奈川工科大学は建学以来、地域連携・地域貢献に力を入れ地域住民の方々と共に研究を活かす取り組みを行っています。地域住民の皆さんとスムーズな連携、共助体制を整えておくことは、高齢化社会においては必須のことと考えます。そのため厚木市と災害に関する包括協定を締結し大学が持つ機能を幅広く活用して頂く連携活動を実施しています。例えば、災害時における厚木市との情報伝達連携体制、災害時における帰宅困難者の受入れ体制、支援物資供給センターの設置と運用、学生ボランティアによる支援策など、発災時に迅速かつ円滑に実働可能な体制確立をめざし取り組んでいます。

近年、我が国では震災、台風、洪水、そしてコロナ禍など多

様な災害が複合的に発生し、その度に不便・不安な生活を余儀なくされています。災害時においては、情報の収集、避難所での生活、疾患を有する被災者のケア、そして感染症対策が加わった現在、平時への回復作業はさらに困難を極めています。

このような災害発生から平時への復旧に至る困難に対して、本研究センターは、工学部・情報学部・創造工学部・応用バイオ科学部・健康医療科学部を有する本学の特徴を活かし、地域と連携しつつ災害時の対策を総合的に研究してまいります。研究活動は、常に実践的な対応を視野に入れ、その成果は厚木市をモデル地区とし、国の施策やガイドラインに取り上げられ全国に展開されることが期待されます。



臨床工学科 特任教授 山家 敏彦

積極的に地域とつながり「防災」「災害ケア」に貢献していきます

Practice 地域連携に基づく研究・教育・活動の実践



KAIT SDGs HUBの学生団体は、防災・災害を意識して活動中



市内29自治会の協力にて防災無線放送の聴こえ調査を実施



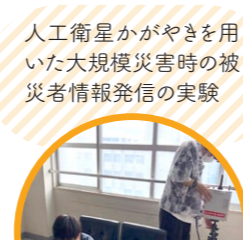
シンポジウム「要配慮者への災害対策」zoomにて当事者参加



教職員 行政 市民(自治会) 学生 地域連携災害ケア研究センター管理室 企業



センター員の教育活動(災害看護学・災害看護活動論)



人工衛星かがやきを用いた大規模災害時の被災者情報発信の実験



災害時対応の不整地走行用ロボット開発



ヒアリンググループを使用する聞こえ補償にトライ(地元自治会へ協力)

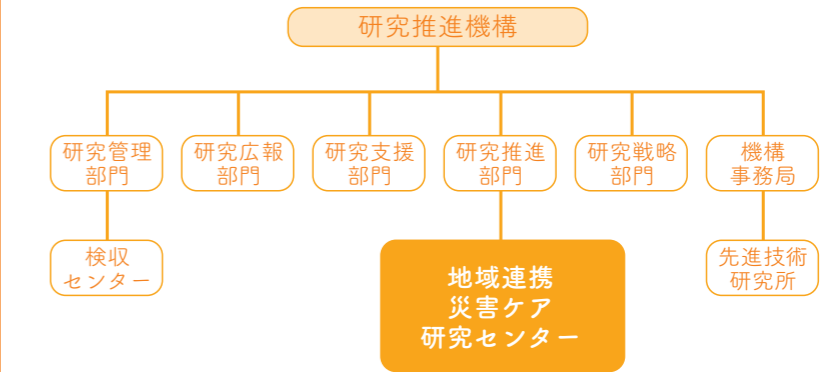


グラウンドへの全学避難訓練。災害時の救助隊駐屯地予定地

皆様とのつながりを大切に、未来の安心・安全につなげていきたいと思ひます。ご連絡をお待ちしております。

センターの連携先 [公的機関] 厚木市危機管理課・企画政策課・福祉総務課・障がい福祉課・地域包括ケア推進課・厚木市社会福祉協議会・あつぎ障害者支援センター他 [企業] 厚木商工会議所、株式会社リコー他 [民間] 荻野地区自治会、他市町村、県社協みなかな [大学] 厚木大学連携・協働協議会など多くの方々の協力関係を築いています。

地域連携災害ケア研究センター機構体制図



アクセス



- 工学部 機械工学科 機械工学コース・航空宇宙学コース/電気電子情報工学科/応用化学科
- 創造工学部 自動車システム開発工学科/ロボット・メカトロニクス学科/ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科 応用バイオコース・生命科学コース
- 情報学部 情報工学科/情報ネットワーク・コミュニケーション学科/情報メディア学科
- 健康医療科学部 看護学科(看護師・保健師養成課程)/管理栄養学科(管理栄養士養成課程)/臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

神奈川工科大学 地域連携 災害ケア研究センター
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 TEL 046-291-3153 FAX 046-291-3262
E-mail chiiki-koken@cml.kanagawa-it.ac.jp URL <https://kait-ccd.jp>

[kait]で検索するとHPにアクセスできます。
検索